

取 扱 い 点 検 説 明 書

- ・ 取扱い説明書をよく読んでから使用してください。
- ・ 不適切な取扱いは事故につながりかねません。
- ・ 取扱い説明書は無くさないように大切に保管してください。

カロード LD
カロード LB

ご 注 意

1. 本機は屋内使用機器ですので、屋外に放置することは絶対におやめください。
2. 本機は直立して使用するものです。裸で輸送の際、立積み、横積みに限らず、ワイヤーロープにタルミが発生しないよう反転枠を上下に動かないよう固定してから輸送してください。
3. 本機は水分厳禁です。水分のかかった時は、すみやかにふき除いてください。
4. 本機の保証規定は日本国内での使用に限定され、国外に持出した場合は保証の対象になりません。

マテハン効用を創る

株式会社

カントー

本社・東京営業所	〒153-0064	東京都目黒区下目黒 2 - 7 - 2 ☎03(3491)5191(代表) FAX 03(3491)5197
大阪営業所	〒578-0963	大阪府東大阪市新庄 3 - 1 0 - 1 4 ☎06(6744)9901(代表) FAX 06(6744)2899
名古屋営業所	〒461-0022	愛知県名古屋市東区東大曾根町 4 7 - 1 2 (清彦ビル) ☎052(936)2084(代表) FAX 052(935)3019
北関東出張所	〒374-0064	群馬県館林市代官町 1 0 - 3 4 - 1 0 1 号 ☎0276(72)4272 FAX 0276(72)4272
御殿場工場・出張所	〒412-0007	静岡県御殿場市永塚 2 6 8 ☎0550(89)1012(代表) FAX 0550(89)1772

<http://k-kantoh.co.jp/>

目 次

安全上のご注意

警 告 事 項

	頁
各部の名称.....	1
各部の名称.....	2
ご使用前の点検.....	3
ウインチボックスの部品説明図.....	4
ウインチボックスの構造図.....	5
操作方法.....	6
機構部関係取扱い.....	8
こんな時は... ..	1 0
保守点検リスト.....	1 8
保守点検記録.....	2 0
安全のための注意.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

安全上のご注意

◆ ご使用上の注意点

警告事項はラベルにて本機の要所に貼付表示いたしておりますが、更に**取扱い点検説明書**は、最初のご使用前に必ずお読みいただいた後、お手元に大切に保管し、正しい使い方とご使用前及び定期の点検整備が適切に実行されるよう、常時取出して用いられることが必要です。

なお、上記ラベルは標準品と特殊品に併用しています。本機の仕様と一部合わない箇所がありますがご了承ください。

◆ 警告事項

この製品及び取扱い点検説明書には、お使いいただく方々への危害あるいは物的損害を未然に防ぎ、製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項（次頁記載）を示しております。その表示の大意は次のとおりです。

- **危険** 取扱いを誤った場合、危険な状況が起こりえて、使用者が死亡または重傷を受ける可能性が想定される内容を示しています。
- **注意** 取扱いを誤った場合、危険な状況が起こりえて、使用者が中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合及び物的損害の発生が想定される内容を示しています。
- **禁止** 安全や性能を維持するための禁止行為を示しています。

次頁に警告事項を具体的に示しました。なお、

・ 注意

 に記載した事項でも状況によっては、重大な結果に結びつく可能性があります。

警告事項

・ 危険

1. 最大積載質量を超える使用はしないこと。
2. 作業者は、反転保持枠やクランプ反転枠に乗らないこと。
3. 容器や補助枠をクランプした時は、固定ハンドルが確実にロックされているか、必ず確認すること。
4. 走行する時以外は、必ずフットブレーキをかけること。

・ 注意

1. クランプ反転枠に容器をセットする時は、手など挟まれないように注意のこと。
2. リフターの移動は、クランプ反転枠をできるだけ下降させてから、ゆっくり走行すること。
3. リフターを手引きにて後進する時は、後方に注意し、足を踏まれないよう注意のこと。
4. クランプ反転枠を上昇させたままで放置しないこと。
5. 容器をクランプしたままで放置しないこと。
6. リフターを倒さないこと。

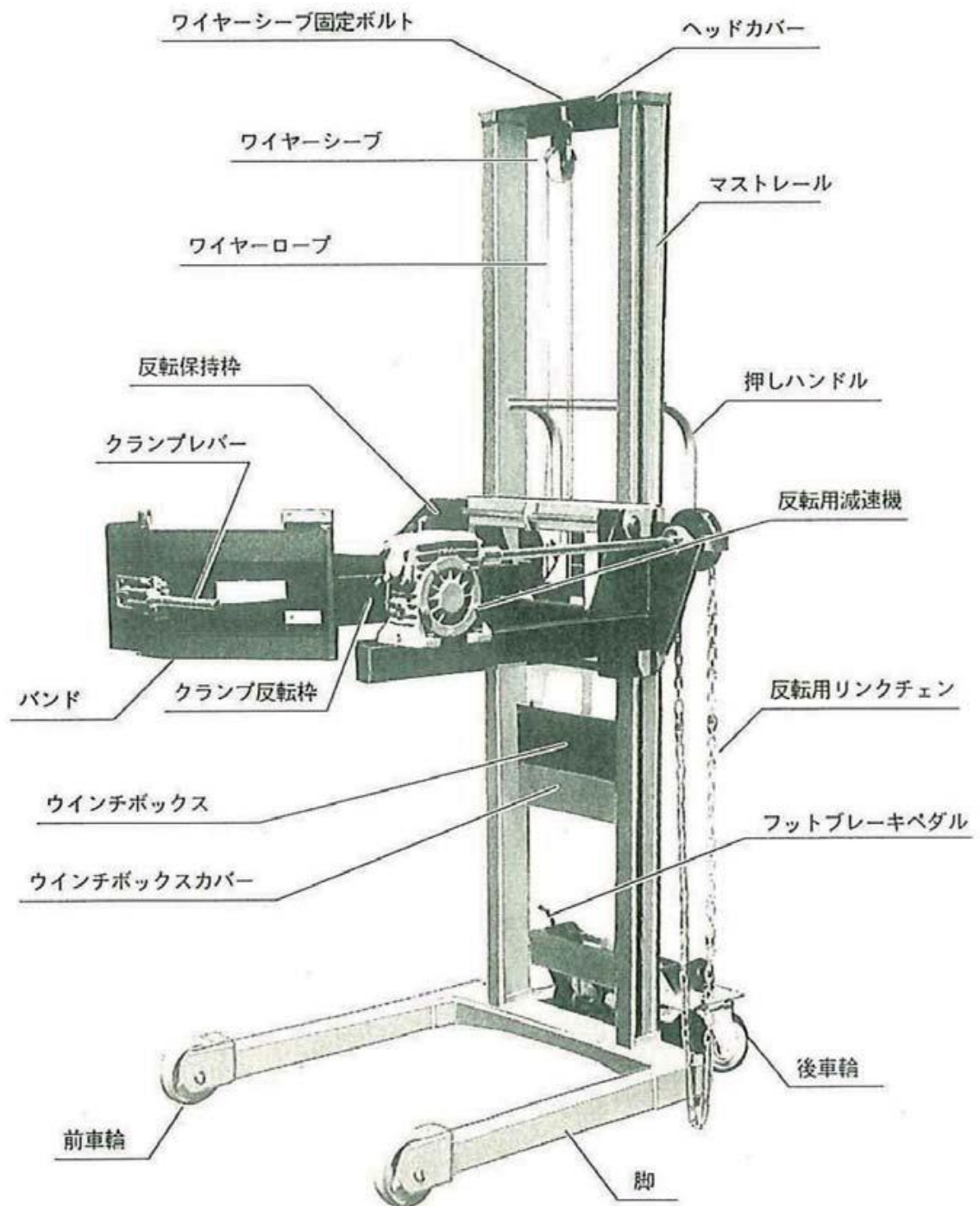
・ 禁止

1. ローラチェーンにサビや亀裂があったり、油圧ホースに傷があるリフターは使用しないこと。
2. 上から落とすように、荷物をクランプ反転枠に載せないこと。
3. 反転保持枠やクランプ反転枠の下には、決して入らないこと。
4. リフターを改造しないこと。
5. 傾斜地での荷扱いと放置はしないこと。
6. リフターを屋外に放置しないこと。
7. **水分厳禁**：水分がかかった時は、すみやかにふき除くこと。

各部の名称

カローダLD

※下記、各部の名称は標準仕様になります。

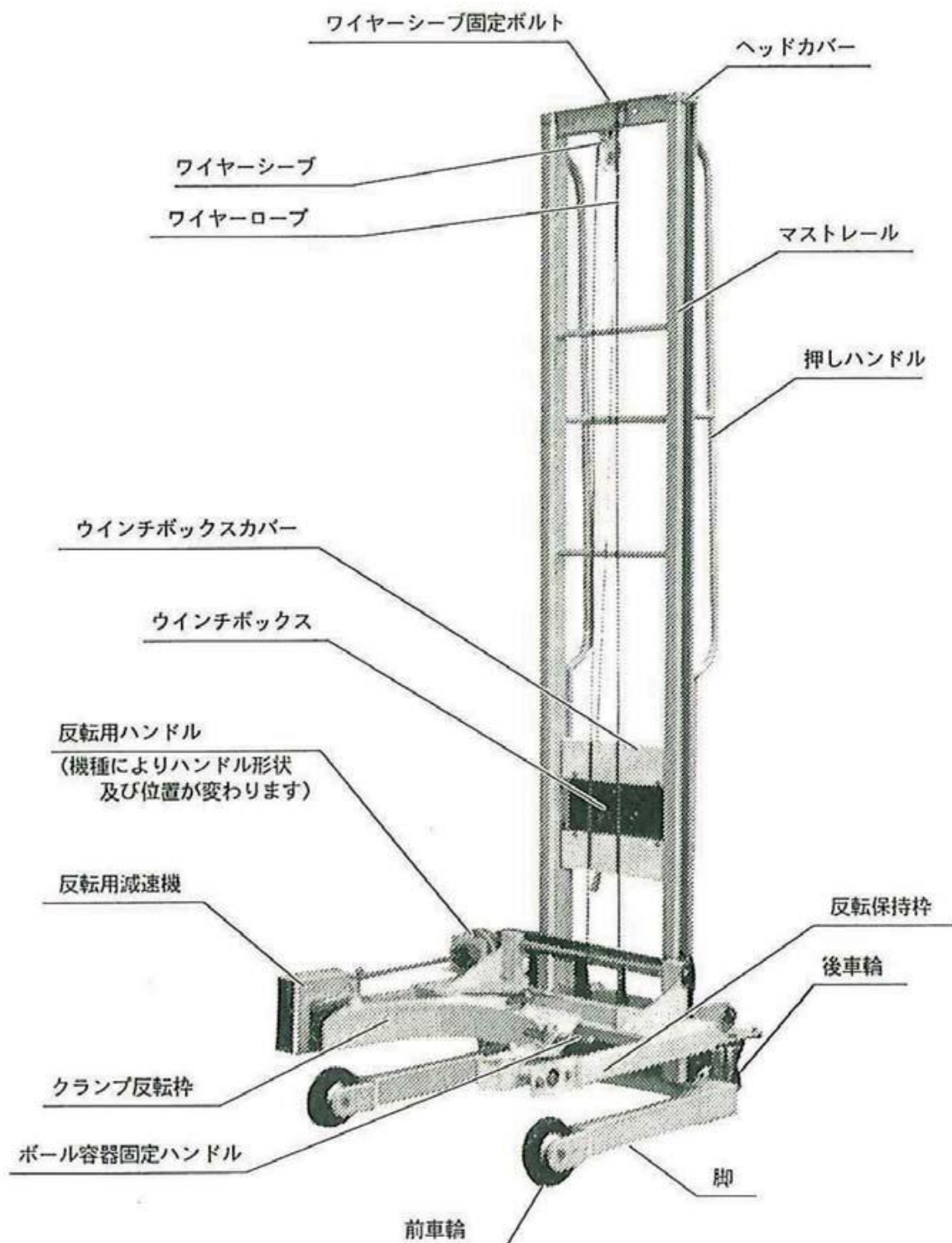


(写真はLDMI型)

各部の名称

カローダLB

※下記、各部の名称は標準仕様になります。



(写真はLBS2型)

この度は **リフター** をご採用いただき誠にありがとうございます。

確実な機能と安全にご使用いただくため、ご使用前に必ず次の事項を点検してください。

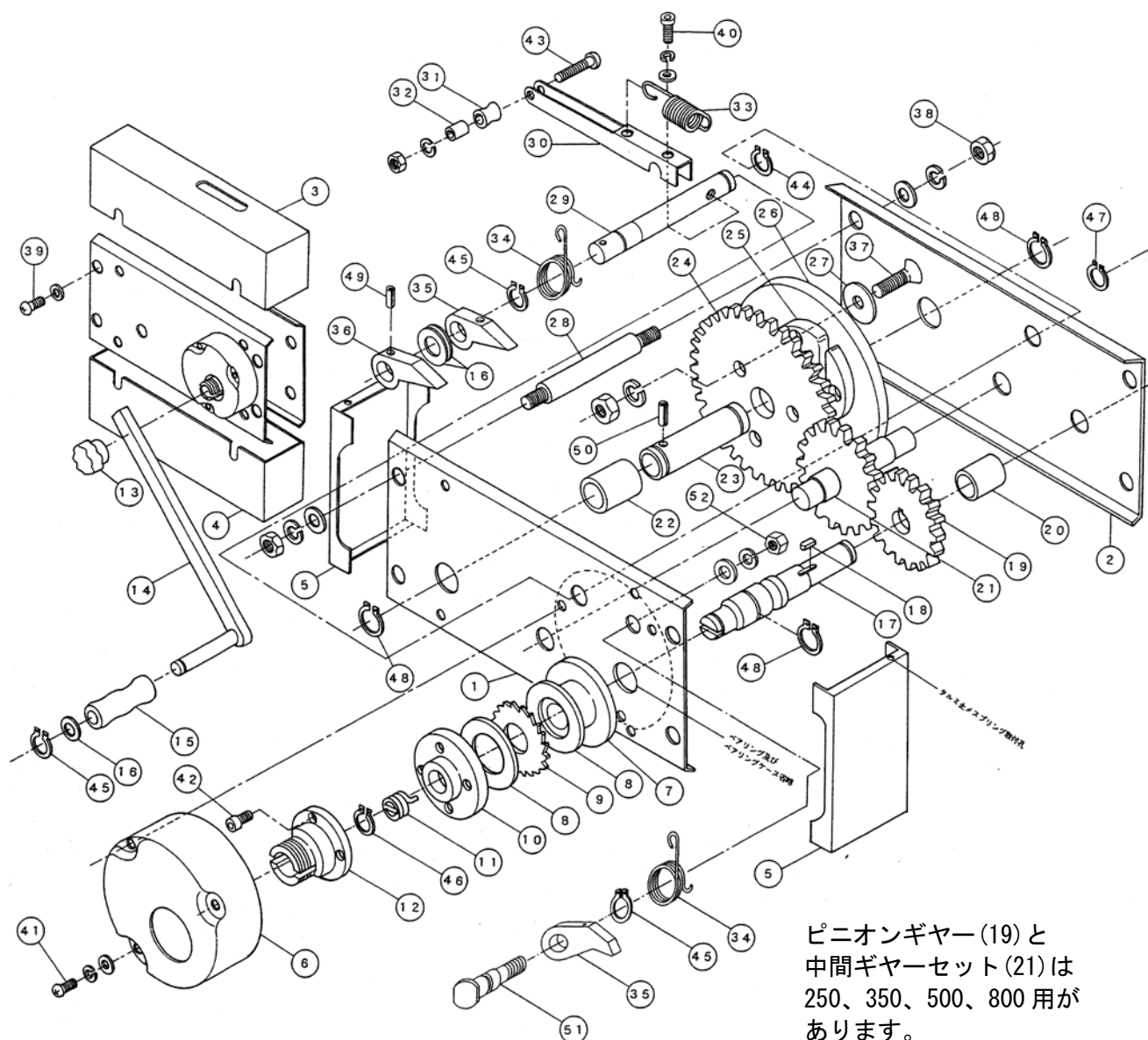
(点検方法は、保守点検リストをご参照ください)

ご使用前の点検

1. ワイヤロープの素線が切れていないか、またサビが発生していないか。
ワイヤロープの点検を怠り、ささくれ（素線切れ）やサビの発生などをそのまま放置して昇降操作をしますと、ワイヤロープが破断し積載物が落下する危険がありますので、必ず点検を行ってください。
2. マストレールに変形（ハラミ）がないか、また脚材との溶接部に亀裂が発生していないか。
3. スライドベースに大きな左右のガタがないか、また溶接部に亀裂が発生していないか。
4. 車輪が破損していないか、またスムーズに旋回や回転するか。
5. 反転保持枠・クランプ反転枠に異常はないか。
6. ボルト・ナット・スナップリングにゆるみや脱落、破損はないか。
7. 空荷で昇降のテストを行ってください。
 - (1) ウインチボックスの自動メカニカルブレーキが確実に働き、反転枠が任意の位置で停止できるか。
 - (2) ウインチボックスのワイヤーたるみ止め装置が確実に働き、ワイヤロープが規定以上にたるまないか。
 - (3) スライドベースがスムーズに昇降するか。
8. フットブレーキが確実に働き、リフターが動かないか。
9. 容器は、正しくセットできるか。

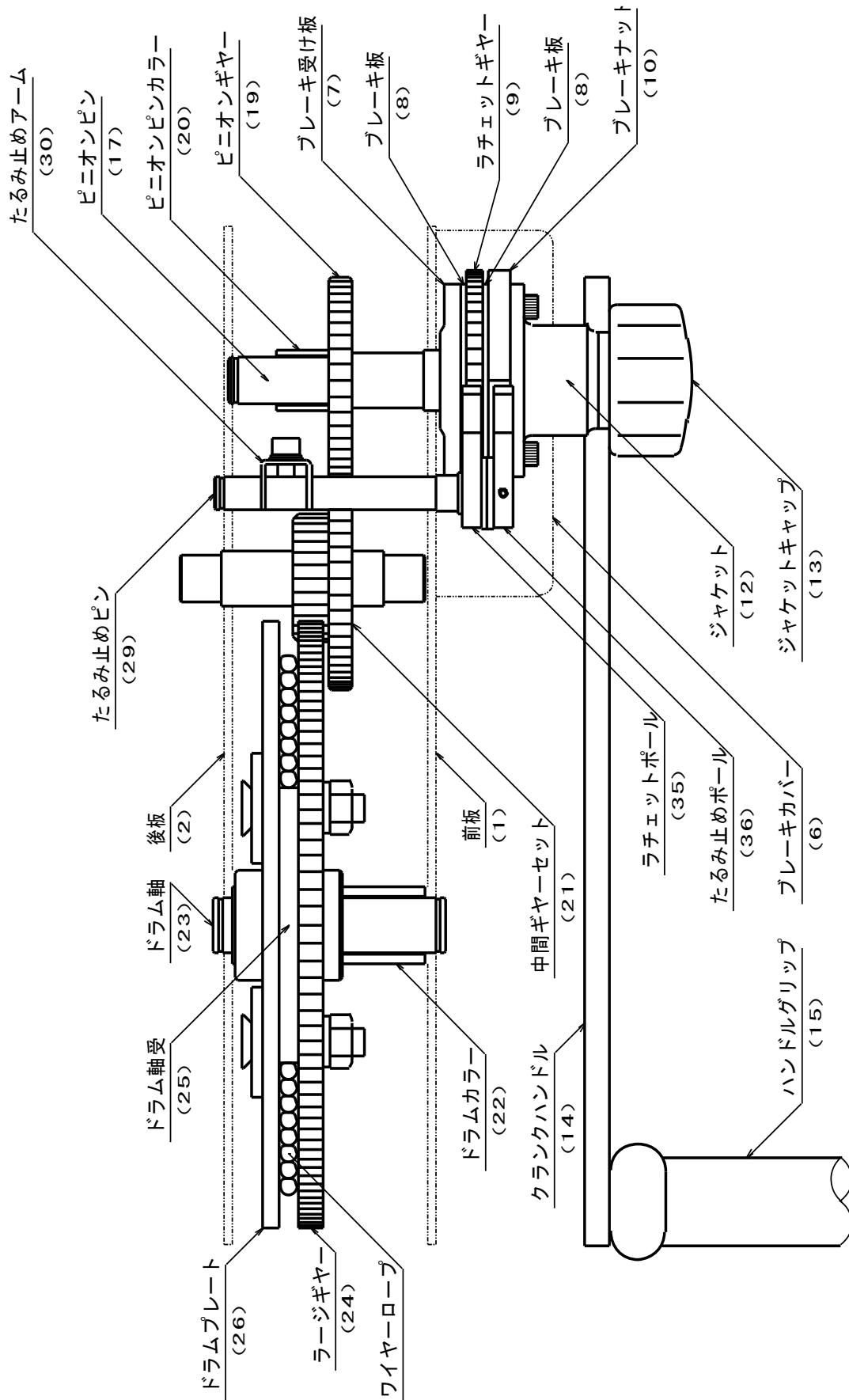
異状が発見された時は、すぐに使用を中止して調整または交換してください。

ウインチボックスの部品説明図



No.	部 品 名	No.	部 品 名	No.	部 品 名	No.	部 品 名
1	前板セット	14	クランクハンドル	27	φ30フォークシャフト用平座金	40	M6×20 六角穴付ボルト
2	後板セット	15	ハンドルグリップ	28	スタッドボルト	41	M6×50 平座金・平座金組込み十字穴付小ねじ
3	上カバー	16	ハンドルグリップ用平ワッシャー	29	たるみ止めピン	42	M5×10 六角穴付ボルト
4	下カバー	17	ピニオンピン	30	たるみ止めアーム	43	M5×25 十字穴付なべ小ねじ
5	サイドカバー	18	5×5-10キー (片丸)	31	たるみ止めローラー	44	φ12 軸用C型止め輪
6	ブレーキカバー	19	ピニオンギヤー (入力)	32	たるみ止めローラーカラー	45	φ13 軸用C型止め輪
7	ブレーキ受け板	20	ピニオンピンカラー	33	たるみ止めスプリング	46	φ16 軸用C型止め輪
8	ブレーキ板	21	中間ギヤーセット	34	ポール押えスプリング	47	φ17 軸用C型止め輪
9	ラチェットギヤー (ブッシュ入)	22	ドラムカラー	35	ラチェットボール	48	φ20 軸用C型止め輪
10	ブレーキナット	23	ドラム軸	36	たるみ止めボール	49	φ3×12 スプリングピン
11	メカニカルブレーキ用スプリング	24	ラーズギヤー	37	M10×40 六角穴付皿ボルト	50	φ3×20 スプリングピン
12	ジャケット	25	ドラム軸受	38	M8六角ナット	51	ボールピン
13	ジャケットキャップ	26	ドラムプレート	39	M6×12 平座金組込み十字穴付小ねじ	52	M10六角ナット

ウインチボックスの構造図



() 内の数字は、ウインチボックスの部品説明図のNo. を表します。

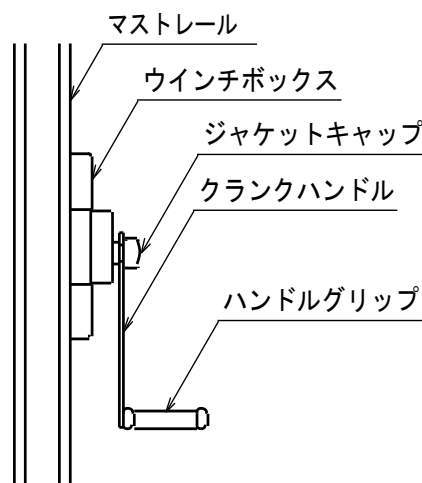
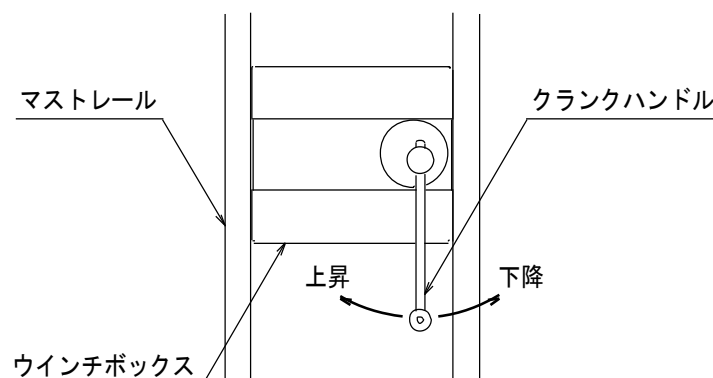
操作方法

昇 降

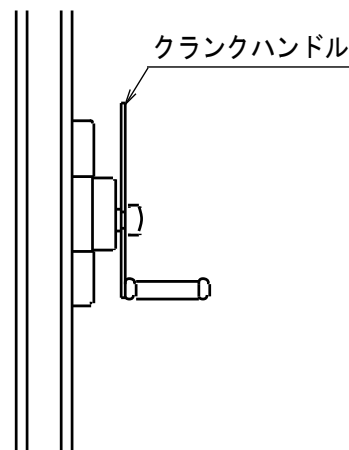
1. 上昇させる時は、クランクハンドルのハンドルグリップを握り、右（時計回り）に回します。
2. 下降させる時は、クランクハンドルのハンドルグリップを握り、左（反時計回り）に回します。
3. 停止する時は、クランクハンドルを回すのをやめます。自動メカニカルブレーキが内蔵されていますので、その場に停止します。
4. クランクハンドルの長さは、ジャケットキャップをゆるめて（反時計回りに回す）調整します。最大積載質量の時はハンドルを長く、軽質量または早巻き・早戻しの時は短くすると、楽に操作できます。

ご注意

1. 昇降のコース内に障害物がないか、常時確認してください。
2. 上昇中、反転枠が障害物に当たったり上限に達したら、絶対にそれ以上巻上げないでください。ウインチボックス内のギヤーなどを破損し、故障の原因となります。
3. クランクハンドルの長さ調整後は、必ずジャケットキャップを締めて（時計回りに回す）ください。
4. フォークの幅を調整する際は、指など挟まないよう注意して行ってください。



【 クランクハンドルを長くした状態 】



【 クランクハンドルを短くした状態 】

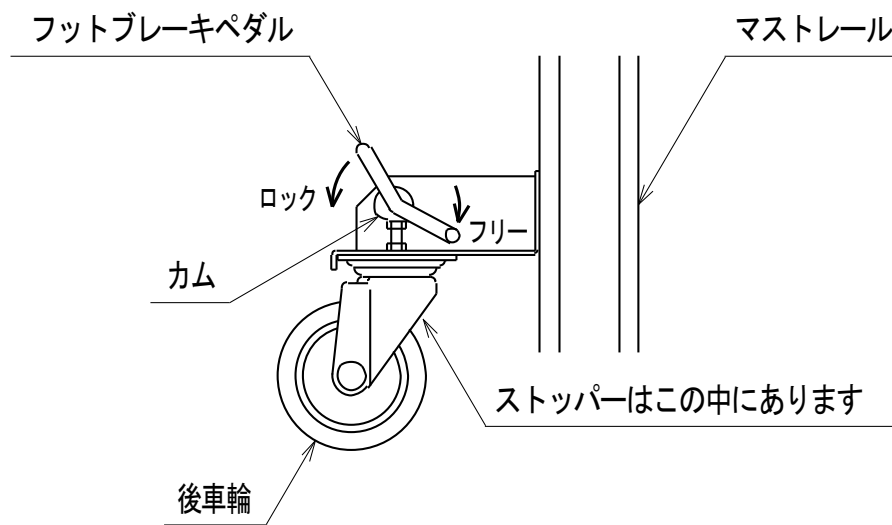
フットブレーキ

リフターが移動しないように、固定させておく時に使用します。

1. ペダルの手前側を踏込むと、後車輪がロックされます。
2. ペダルの先側を踏込むと、ロックがはずれフリーになります。
3. 後車輪、カム及びフットブレーキストッパーが摩耗してきますと、多少ブレーキの効きが悪くなりますので、その時は調整してください。

(調整方法は **フットブレーキの調整** の項をご参照ください)

ご注意 走行する時以外は、必ずフットブレーキをかけてください。



移 動

1. 反転枠をできるだけ下降させ、重心を低くします。
2. 押しハンドルを握り、フットブレーキをフリーにして、手押しまたは手引きにて移動します。

- ご注意**
1. 路面・積荷の状態の安全を、十分に確かめてください。
 2. 移動速度は、人間がゆっくり歩く程度(2～3 km/h)で、緊急以外は急ブレーキをかけないでください。
 3. 傾斜、溝及び障害突起物を越える時は、十分に注意をしてください。
 4. 手引きにて後進する時は、後方に注意し、足を踏まれないようにしてください。

機構部関係取扱い

ワイヤーたるみ止め装置

1. ウインチボックスに、内蔵（ブレーキカバー内）されています。

この効用は、ワイヤーロープに張力が作用しなくなった時、クランクハンドルが左回転するのを止めて、ワイヤーロープが規定以上にたるむのを防止するものです。

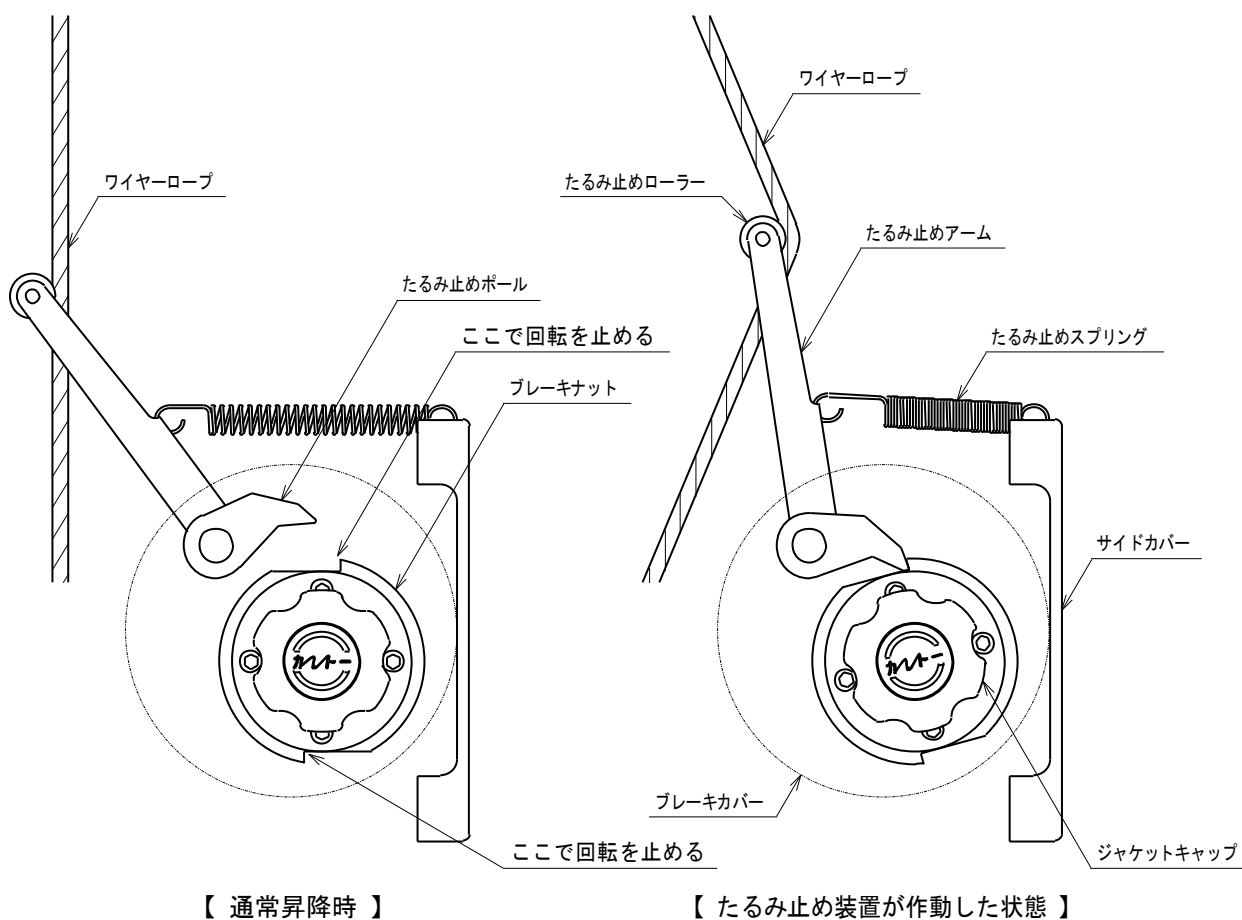
2. この装置は、反転枠を最下部まで下降させた時、または下降中に昇降部〔反転枠及びスライドベース〕が障害物に当たり、それ以上、下降できない時に作動します。

この装置を解除する時は、クランクハンドルを右（時計回り）に回し、反転枠を上昇させます。

障害物により下降できない場合には、反転枠を上昇させて、障害物を取除いてください。

ご注意 ワイヤーたるみ止め装置を、ひんぱんに作動させないでください。

ブレーキナットを傷つけ、故障の原因となります。



フットブレーキの調整

車輪などの摩耗にともなって多少ブレーキの効きが悪くなりますので、その時は次の要領で調整してください。

【調整方法】

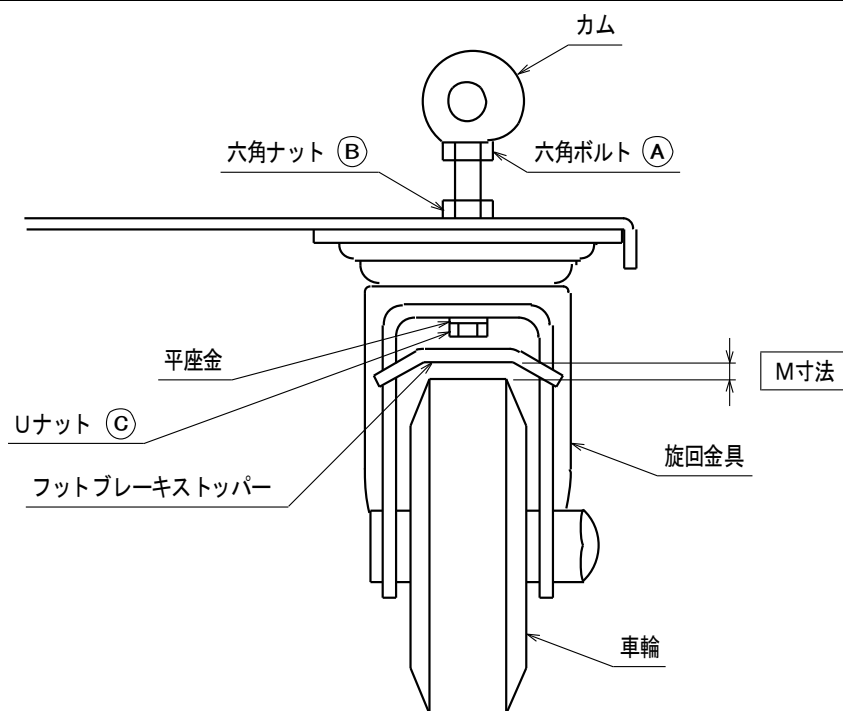
1. 六角ボルト①を14mmのスパナで固定し、六角ナット②を17mmのスパナで左（反時計回り）に回してゆるめます。
2. Uナット③を13mmのスパナで固定し、六角ボルト①を17mmのスパナで左（反時計回り）に回して、下記のM寸法になるように調整します。

M寸法

ゴム車輪……3mm

ウレタン車輪……5mm

3. 調整後、六角ボルト①を14mmのスパナで固定し、六角ナット②を17mmのスパナで右（時計回り）に回して、仮締めします。
4. Uナット③を13mmのスパナで固定し、六角ナット②を17mmのスパナで右（時計回り）に回して締付けます。



摩耗が多くなり調整してもブレーキが効かなくなった時は、車輪・カム及びフットブレーキストッパーを交換してください。

（交換する際は、当社サービス係にマニュアルをご請求ください）

こんな時は…

1. 上昇しない時…**すぐ使用を中止して、下記項目を点検処理のこと。**

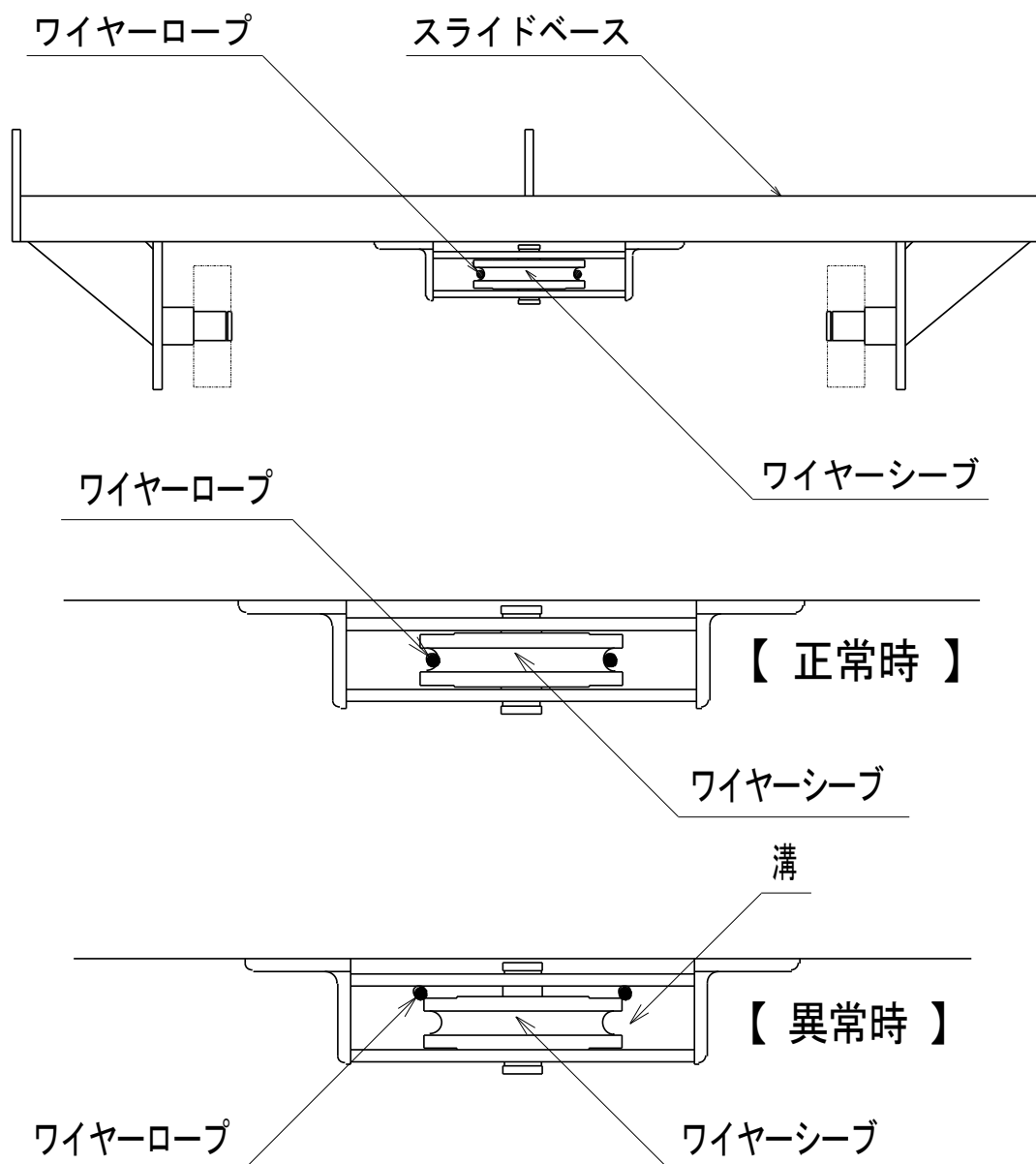
- (1) 昇降部〔反転枠及びスライドベース〕が、最上部まで上昇されている。
- (2) ワイヤロープが、ワイヤーシープ部またはウインチボックス内の巻取ドラム部よりはずれ、ワイヤーシープと取付金具の間にはさまったり（下図）、ウインチボックス内のギヤーにはさまっている。（次頁の図）

＜対策＞ ①スライドベースを手で持上げ、スライドベースの下に角材などを入れて保持します。

②ワイヤロープがたるむので、からまっている部分より取りはずします。

③ワイヤロープを、ワイヤーシープの溝または巻取ドラム部にセットし直します。

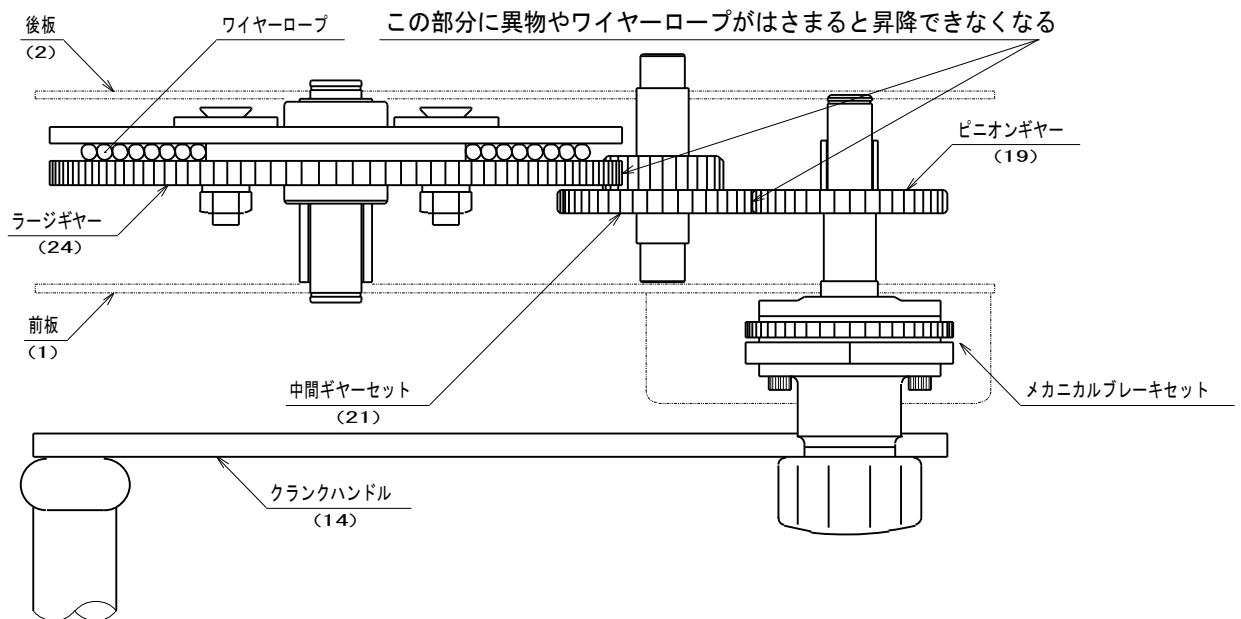
ワイヤロープに傷がついている時は、必ず新品と交換してください。



- (3) ウインチボックス内のギヤーに、異物やワイヤーロープがはさまっている。またはギヤーが破損や変形している。

＜対策＞ ①ウインチボックスの上カバーをはずし、異物やワイヤーロープを取除きます。
②ギヤーが破損や変形していないか、またワイヤーロープが傷ついていないか必ず点検してください。

破損、変形または傷ついていたら使用を中止し、当社サービス係までご連絡ください。



2. 下降しない時…**すぐ使用を中止して、下記項目を点検処理のこと。**

- (1) 昇降部〔反転枠及びスライドベース〕が最下部まで下降されている。
(2) 昇降部〔反転枠及びスライドベース〕が障害物に当たっていて、ワイヤーたるみ止め装置が作動している。

＜対策＞ クランクハンドルを右（時計回り）に回して昇降部〔反転枠及びスライドベース〕を上昇させ、障害物を取除いてください。

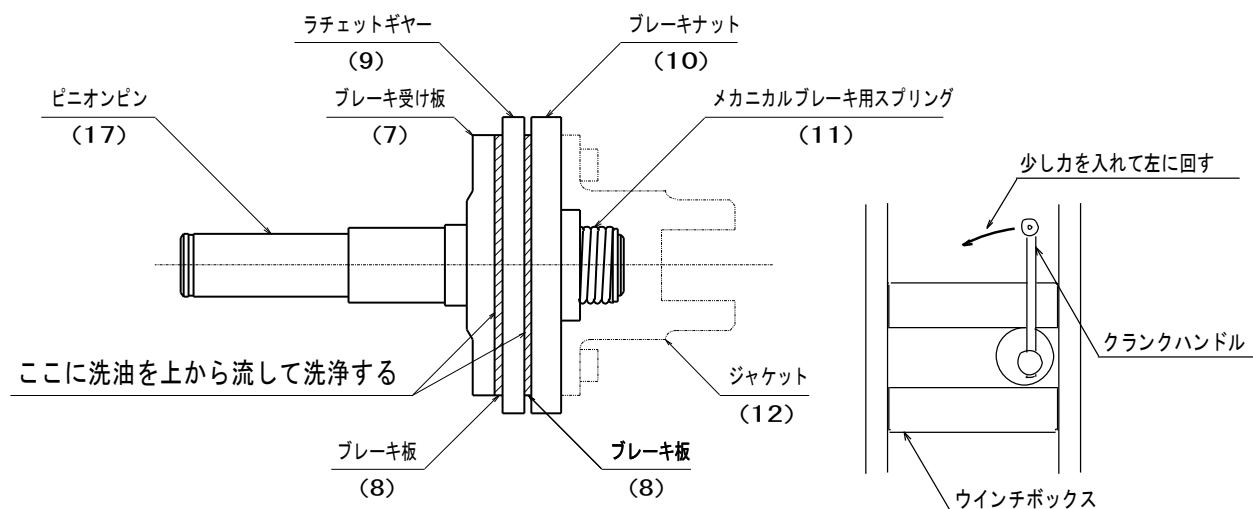
- (3) ワイヤーロープが、ワイヤーシーブ部またはウインチボックス内の巻取ドラム部よりはずれ、ワイヤーシーブと取付金具の間にはさまったり、シャフトなどにかからまっている。

（ 1. 上昇しない時… と同じ）

- (4) ウインチボックス内のギヤーに、異物やワイヤーロープがはさまっている。またはギヤーが破損や変形している。（ 1. 上昇しない時… と同じ）

- (5) 反転枠に急激なショックを与えた、または、しばらく使用していなかった。

＜対策＞ メカニカルブレーキの接触部（2枚のブレーキ板が接触している部分）がきつくなってガッチリきいているので、少し力を入れてクランクハンドルを左（反時計まわり）に回してください。



【メカニカルブレーキセット】

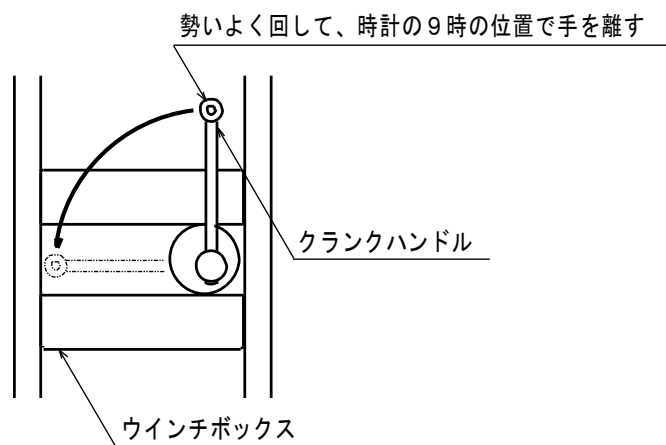
3. 自動メカニカルブレーキの効きが悪い時…**すぐ使用を中止して、下記項目を点検処理のこと。**

空荷でクランクハンドルを最長に伸ばし、勢いよく左回転し、時計の9時の位置でクランクハンドルから手を離します。(下図参照) 惰性でクランクハンドルが2回転以上する時は、ブレーキ板(摩擦板)がゴミや油で汚れています。

<対策> (1) ブレーキカバーをはずし、クランクハンドルを左に回転しながら、ラチェットギヤーの両側にあるブレーキ板に洗油を上から流して洗浄してください。

(上左図参照)

(2) (1)の対策でよくならない時は、ブレーキ板の交換が必要です。当社サービス係にご連絡ください。



4. 自動メカニカルブレーキが効かない時…**すぐ使用を中止のこと。**

空荷でも、反転枠が停止せず落下してしまう。

<原因> ラチェットポール(ウインチボックスの部品説明図のNo.35)先端の損傷、ポール押えスプリング(ウインチボックスの部品説明図のNo.34)の破損による動作不良、またはブレーキ板の脱落が考えられます。当社サービス係にご連絡ください。

5. スライドベースに大きなガタがある時…

(1) 過大荷重によりマストレールに、損耗・ハラミなどの変形がないか点検してください。

変形がある時は、調整不可・使用中止

(2) スライドベースの横側（両側）に、2本の調整ボルトと1本の固定ボルト（六角穴付）があります。ゆるんでいないか点検してください。（下図参照）

(3) 上記の点検で異状がなく、スライドベースに左右のガタが5mm以上ある時は、次の手順で調整してください。

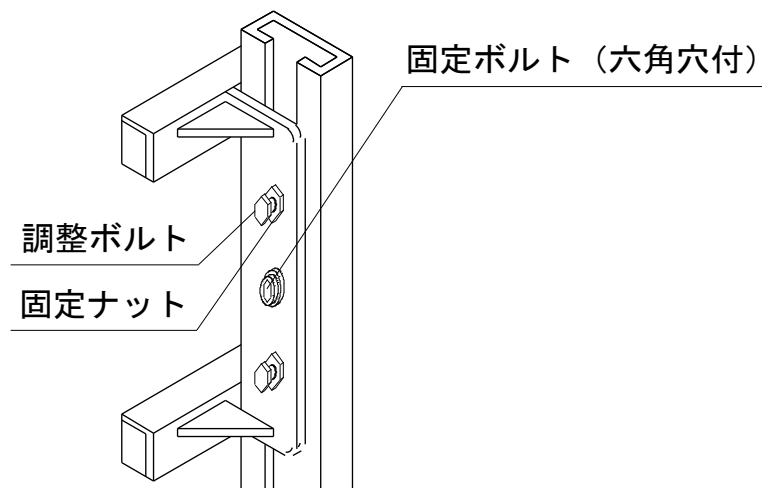
① マストレールとのガタが最も少ない位置に、スライドベースを移動させます。

② 固定ナットをゆるめ、調整ボルトを回して調整します。右（時計回り）に回せば“キツク”なり、左（反時計回り）に回せば“ユルク”なります。

上下の調整ボルトを平均に締めます。

③ 空荷で最上部から最下部までスムーズに、スライドベースが下降することを確認します。
調整ボルトを締めすぎると、途中で停止してしまうことがあります。

④ 固定ナットを確実に締付けます。



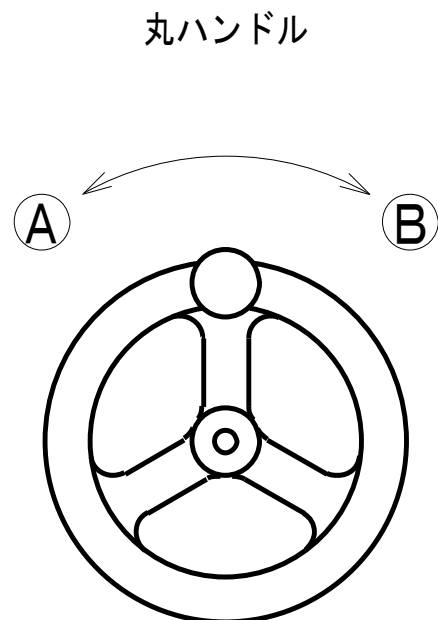
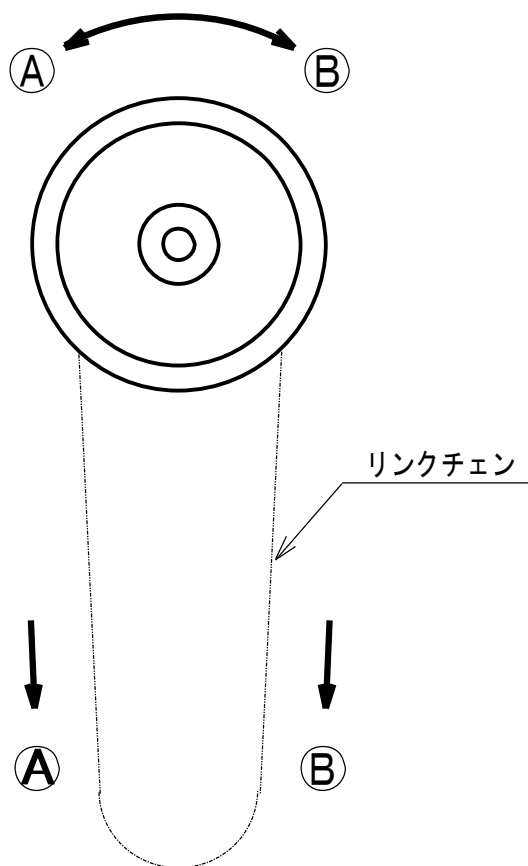
反 転

◎ 反転用リンクチェンまたは反転用丸ハンドルを、回転操作することにより反転させます。

Ⓐ 左回転 …… 反転

Ⓑ 右回転 …… 戻し

※機種により、左回転…… 戻し・右回転 …… 反転の場合もあります。



ご注意

1. 反転させる時は、反転枠に荷物が確実に固定されているか、必ず確認してください。
2. 反転は、荷物や反転枠が、床や天井などに当たらない高さで行なってください。
3. 反転中は、反転のコース内に入らないでください。
4. 内容物により、反転速度を加減してください。あまり速いとバックラッシュが発生し、内容物がおどることがあります。

カローダLDの取扱いと機能

クランプ方法

次ページのクランプの調整をご参照ください。

1. 反転用リンクチェーン（または、丸ハンドル）を操作して、クランプ反転枠を水平にします。
2. クランプ反転枠を最下部まで下降させます。
3. クラмпレバーを矢印方向に引いて、バンド②のフックからUボルトをはずします。
4. バンド①②をそれぞれ外側に開きます。
5. リフターを押して、直立のドラム缶にクランプ反転枠をはめ込みます。この時、クランプ反転枠の中心がドラム缶の中心に合うように、高さを調整してください。
6. バンド①②を内側に閉じ、Uボルトをバンド②のフックに掛けてロックします。
7. 以上でドラム缶のクランプは完了です。なお、ドラム缶の取りはずしは1～4の操作を行います。

ご注意 クランプ状態がゆるい時、または、きつすぎる時は、調整ナットを回して調整してください。

反転方法

1. 反転保持枠に取付けられた反転用減速機のリンクチェーン（または、丸ハンドル）を回転操作することにより反転します。
2. ウォームギヤーを使用していますので、反転操作をやめた位置で停止します。

ご注意

1. 反転は、ドラム缶のクランプ反転枠が床や天井などに当たらない高さで行ってください。
2. 内容物により、反転速度を加減してください。あまり速いとバックラッシュが発生し、内容物がおどることがあります。

クランプの調製

本リフターは2000ドラム缶（クランプ部外径約580mm）用で、クランプレバー操作力は147N～196N（15～20kgf）で調整してありますが、クランプ状態がゆるい時、または、きつすぎる時は、次の要領で調整してください。

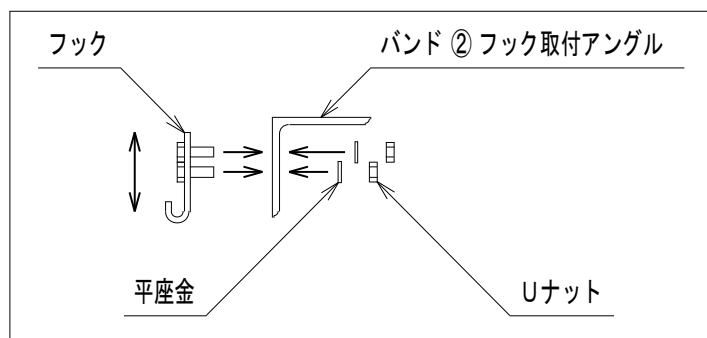
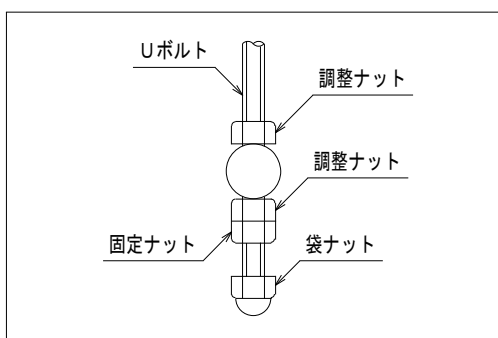
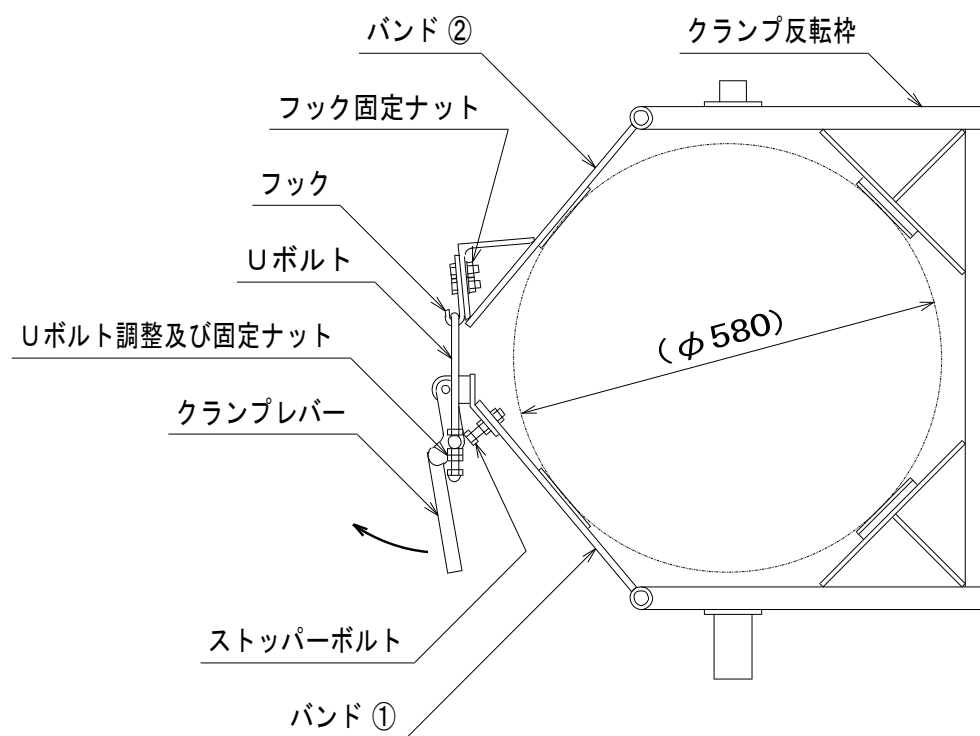
1. Uボルトの調整

- (1) Uボルトの固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して調整します。
- (2) 調整後は、固定ナットを確実に締付けます。

2. フックの取付位置変更

Uボルトだけで調整できない時は、フックの取付位置を変更してください。

- (1) Uナットを回して、Uナットと平ワッシャを取りはずします（2カ所）
- (2) フックを取りはずし、別の取付位置に取付けます（取付位置は3カ所あります）
- (3) フックのボルトに平ワッシャを入れ、Uナットを確実に締付けます（2カ所）



カロードLBの取扱いと機能

クランプ方法

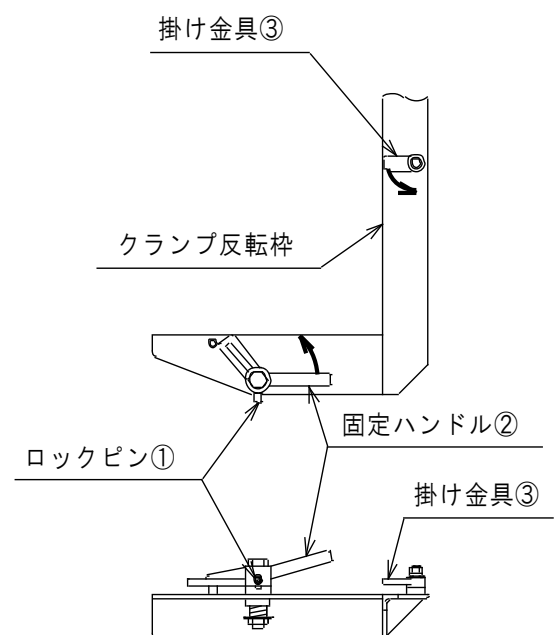
1. 反転用リンクチェーン（または、丸ハンドル）を操作して、クランプ反転枠を水平にします。
2. クランプ反転枠を最下部まで下降させます。
3. ロックピン①を上方向に引上げます。
4. 固定ハンドル②を矢印方向に回します。
5. 掛金具③を矢印方向に回します。
6. 容器をセットします。容器のフランジ部の孔が、クランプ反転枠のピンに確実に入っていることを必ず確認してください。
7. 固定ハンドル②を矢印と逆方向に回し、ロックピン①がセットされ固定ハンドルがロックされていることを、更に矢印方向に回し必ず確認してください。
8. 掛金具③を矢印と逆方向に回しフランジを押えます。
9. 以上で容器のクランプは完了です。なお、容器の取りはずしは1～5の操作を行います。

反転方法

1. 反転保持枠に取付けられた反転用減速機の反転用リンクチェーン（または、丸ハンドル）を回転操作することにより反転します。
2. ウォームギヤーを使用していますので、反転操作をやめた位置で停止します。

ご注意

1. 反転は、ボールやクランプ反転枠が床や天井などに当たらない高さで行ってください。
2. 内容物により、反転速度を加減してください。あまり速いとバックラッシュが発生し、内容物がおどることがあります。
3. キャスルナイトは絶対に緩めないでください。
キャスルナイトを緩めると、容器が落下する恐れがあり大変危険ですので決して行わないでください。



保守点検リスト

リフター本体

点 検 箇 所	点 検 方 法	点検時期	処 置 方 法
ワイヤーロープ	ささくれ（素線切れ） スライドベースを最下部まで下降させてから、ウエスにオイルを付け、ワイヤーロープをふいて点検する。 ワイヤーロープをふく時は、ささくれが手に刺さらないように注意して行ってください。	週 1 回以上	（消耗品） ささくれが生じ、ウエスに引っかかるようになった時は、交換する。
マストレール	マストハラミ マストレール断面に変形（ハラミ）がないか点検する。	月 1 回以上	5 mm 以上の変形（ハラミ）がある時は、使用を中止する。（交換） （原因：積載質量またはモーメントオーバー）
スライドベース	左右ガタ点検 空荷にして上部を持ち、左右に振る。	使 用 前	ガタが 5 mm 以上ある時は、調整する。 （ こんな時は… 、1 3 項をご参照ください）
反 転 保 持 棒	前ダレ点検 空荷にして、クランプ反転棒の先端部及び根元の床面からの高さを計る。	月 1 回以上	先端部が 1 0 mm 以上低くなった時は、交換する。 （原因：積載質量またはモーメントオーバー）
	反転用丸ハンドルを回して、反転や戻しがスムーズにできるか点検する。		できない時は、修理または交換する。
クランプ反転棒	容器を確実にクランプできるか点検する。	使 用 前	クランプができない時は、修理または交換する。
車 輪	回転具合、損耗 車輪を浮かし、手で回して回転・旋回具合及び損耗がないか点検する。	月 1 回以上	手で回らない時、欠けている時は、交換する。
フットブレーキ	効き具合 空荷で、ブレーキをかけて押す。	使 用 前	動く時は、調整する。 （ フットブレーキの調整 の項をご参照ください）
溶 接 部	亀裂が発生していないか、点検する。	使 用 前	亀裂がある時は、修理または交換する。
取付ビス全般	ボルト・ナット・スナップリングの固定を確認する。 特にヘッドカバーのワイヤーシープの固定ボルト及びナットは重視。	使 用 前	ゆるんでいる時は、締付ける。

ウインチボックス

点 検 箇 所	点 検 方 法	点検時期	処 置 方 法
スパーギヤー (平歯車) (19) (21) (24)	上カバーを開け、ギヤーのかみ具合・減り具合を点検する。	週 1 回以上	(消耗品) 歯形が変形した時は、交換する。
	潤滑油を注入する。 (工業用ギヤーオイル、粘度区分1400 相当)		
ラチェットポール (35)	先端に摩耗がないか点検する。	週 1 回以上	欠けたり、摩耗している時は、交換する。
	ラチェットポールのセット 空荷にしてクランクハンドルを右回転(時計回り)し、カタカタ音がするか点検する。	使 用 前	音がしない時は、当社サービス係へご連絡ください。
ボール押えスプリング (34)	サビ、キズがないか点検する。	週 1 回以上	サビ、キズがある時は、交換する。
ブレーキ板 (8)	割れ、脱落がなく確実にセットされているか点検する。	週 1 回以上	割れたり、脱落している時は、交換する。
	空荷でクランクハンドルを最長に伸ばして勢いよく左回転させ、時計の 9 時の位置で手を離して、惰性で 2 回転以上しないか点検する。	使 用 前	2 回転以上する時は、 こんな時は… 、1 2 項の＜対策＞を実施する。
	荷物を載せクランクハンドルを最長に伸ばし、右回転して上昇させ、時計の 9 時の位置で手を離して、半回転以上、逆転しないか点検する。	週 1 回以上	半回転以上、逆転する時は、 こんな時は… 、1 2 項の＜対策＞を実施する。
取付ビス全般	ボルト・ナット・スナップリングの固定を確認する。	使 用 前	ゆるんでいる時は、締付ける。

※ 部品名の下 の () 内数字は、『ウインチボックスの部品説明図』のNo.を表します。

[illegible]

20

安全のための注意

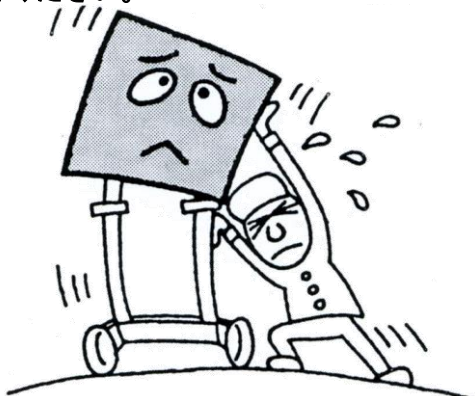
- ・最大積載量を超える荷物を積まないでください。



- ・反転枠（荷受部）の先端で昇降しないでください。
- ・急な下降操作はしないでください。



- ・アンバランスな荷積みや急旋回は絶対にしないでください。



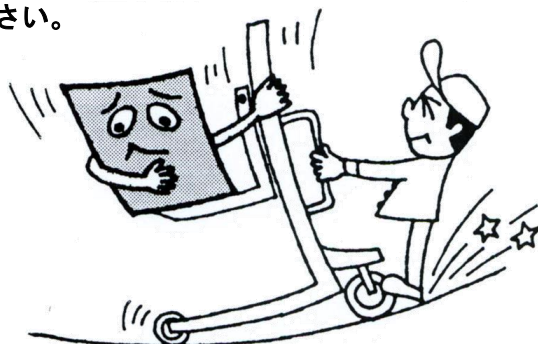
- ・反転枠（荷受部）の下、近くは危険です。



- ・反転枠（荷受部）の上に乗らないでください。



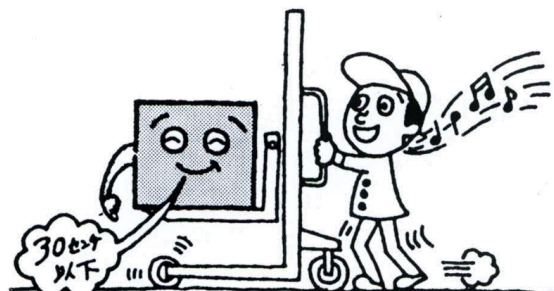
- ・わき見や傾斜地での使用は厳禁です。
- ・移動するときは周囲を目視で確認してください。



- ・段差のある所や傾斜地では使用しないでください。



- ・運搬時は30cm以下で移動します。
- ・荷物で視界が悪い場合は誘導者をつけてください。



●ちょっとした気のゆるみや過信、油断が重大な事故をひき起こす原因となります。